

遊休施設をピックアップした結果、旧松ヶ原小学校を使つてもらうことが適当だと判断しました。現在の事業を行うには若干広いのではないかと いう意見もありましたが、耐震化された校舎であり、通所するにも市街地から比較的近い、自然が豊かということも要因です。また、施設誘致に 関して松ヶ原地区の理解が得られたことも大きな決め手となりました。



地域に開放されたラウンジ。  
自販機の売り上げも通所者の収入につなげる

りとして、市の福祉行政の充実を図っていきたいと思っております」。

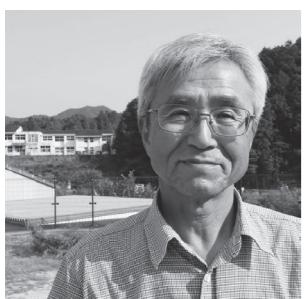
遊休施設の有効活用や多くの事業開始条件の観点からも事業者へは無償貸与としています。施設の改築などは事業者が負担、それに対しても市の補助金などは投じています。また、グラウンドや体育館などの日常的な管理を任せています。

契約では、先ほど挙げた6つの条件を5年以内に実現してもらうようにしています。とりわけ市内でのグループホームの整備は、早急に実現してもらいたいと考えています。

公美園を背景に東田自治会長

お互いがいい形で  
助け合えたら。

松ヶ原自治会長  
東田 保夫さん



小学校が廃校になり11年、地域の中心的な存在が無くなり寂しく思っていました。グフウンドゴルフをしたり、体育馆を使つたりしていましたが、施設も傷んできました。施設の維持の面からも有効活用するのはいいと喜んでいました。こうした福祉施設やこども館など、松ヶ原に新しい人か来てくれるのはうれしいです。これら施設の人と地元が連携して何かできたらいいと思っています。例えば遊休農地を活用した農産物の販売などもできたらいいなと、ぼんやりとは考えています。お互いいい形になるように助け合っていきたい気持ちです。

**日** 松ヶ原小学校を活用した  
福祉施設「松美園」。その  
誕生までの歩みを福祉課の小  
川和良障害福祉係長に尋ね  
た。

「市が策定した障害福祉計  
画の4期～5期の中で、障害  
者の地域生活支援拠点を整備  
することにしています。障害  
者が地元で暮らせるようにな  
る政策です。保護者の高齢  
化による身体的な負担の軽

者が安心して生活できる施設が求められています。それらを踏まえ、計画の中で掲げてることを実現できる事業者を探していました。具体的には①生活介護②就労継続支援B型③日中一時支援④相談支援事業⑤ショートステイ⑥ダ

# 小学校、 福祉施設に 生まれ変わる。

—障害福祉サービス事業所  
おおたけ松美園オープン—

問い合わせ 福祉課 ☎ 2146  
(取材 企画財政課)

7月1日、松ヶ原に新しい施設が誕生した。旧松ヶ原小学校が改築され、障害者福祉施設の「おおたけ松美園」として生まれ変わったものだ。この日、開所式が行われ12人の障害者と保護者らが出席した。施設を運営する(社)美和福祉会の亀井新五理事長は「皆さんや地域にとって、よい施設ができたと喜ばれるようになりたい」と新たな門出への決意を述べた。

この施設は、生活介護、就労継続支援B型という福祉サービスを提供する多機能型事業所としてスタートした。将来的には、さらなるサービスの充実も視野に入れている。

開所式の後、出席者らは施設を見学。これから通い過ごす場を興味深げに見て回つた。

**施設の責任者、嵐川純一施設長は、福祉の仕事に携わって32年のベテラン。障害者福祉の前には、老人福祉の仕事の経験も持つ。障害者福祉の世界も高齢化が進んでおり、その経験も大きく役立っているようだ。**

**地**域との関係も重要と考え  
る嵐川さん。施設にはラ  
ウンジという地元の方が自由  
に使えるスペースも設けてあ  
る。毎週金曜日には地元の方  
がグラウンドゴルフを楽しん  
でいる。その後の談話の場や  
集会の場として利用してもら  
えればと考えている。

「楽しいから、褒められるか  
ら」という理由で働いていいと  
思います。ここで楽しいこと  
を探して欲しい。それがいづ  
れは工賃のアップにもつなが  
ると考えています」。

スタートを切ったばかりの  
施設。この場で生活スキルや  
就労スキルを身につけること  
ができるなどを願う嵐川さん  
だった。



- ①自動車部品の一部製造を請け負う。素早くリングをはめていく新見喬介さんを見守る嵐川施設長。
- ②ドアの部品になるパッキン。
- ③手芸の得意な人が作るマスクott。イベントで販売中。



開所式で通所者代表が  
「松美園ができてよかったです」とあいさつ。